

PIMCO 米国ハイールド債券 通貨選択型ファンド(円コース)

《愛称:ハイールドプラス(円コース)》

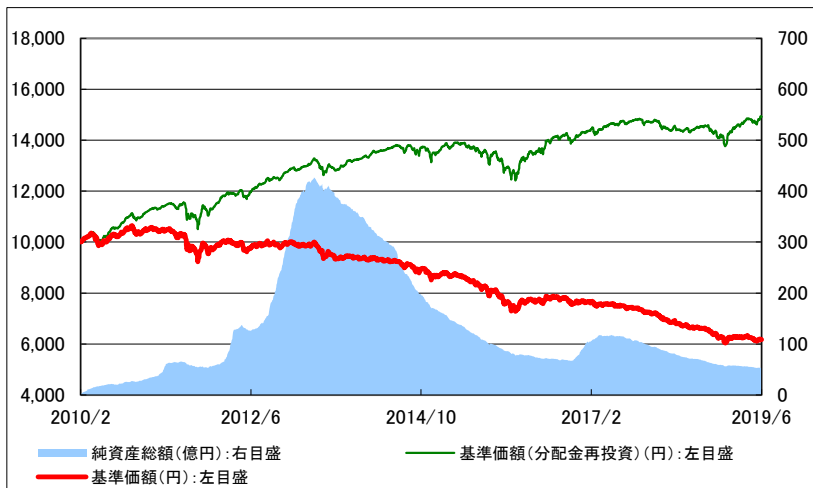
追加型投信/海外/債券

当初設定日 : 2010年2月26日

作成基準日 : 2019年6月28日

※当資料は各通貨コース(6ファンド)のレポートで構成されています。

基準価額の推移



※ データは、当初設定日から作成基準日までを表示しています。
 ※ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
 ※ 基準価額は、信託報酬控除後です。

基準価額、純資産総額

	当月末	前月末比
基準価額	6,169円	+37円
純資産総額	53.02億円	-0.12億円

期間別騰落率

	騰落率
1カ月	1.59%
3カ月	1.69%
6カ月	8.29%
1年	4.13%
3年	9.80%
設定来	49.15%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

資産配分比率

投資対象	配分比率
PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンドクラスY(JPY, Hedged)	98.44%
マネーパールマザーファンド	0.08%
その他	1.48%

※ 対純資産総額比です。

通貨配分比率

通貨	比率
日本円	99.66%
米国ドル・その他	0.34%

※ 「PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンドクラスY(JPY, Hedged)」における実質為替エクスポージャーを表示しています。

分配の推移(1万口当たり、税引前)

設定来分配金合計額 7,555 円

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2018年	60円	60円	60円	60円	60円	60円	60円	60円	60円	60円	60円	60円
2019年	60円	60円	60円	60円	60円	60円	-	-	-	-	-	-

※ 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

基準価額騰落の要因分析

債券要因	インカム	29円
	キャピタル	90円
為替要因	ヘッジプレミアム/コスト(理論値)	-13円
	為替変動	0円
分配要因		-60円
信託報酬等要因		-9円
その他		-0円
合計		37円

※ 要因分析は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。あくまで傾向を知るための目安としてご覧ください。

※ 「インカム」とは、保有債券の利子などの収益です。

※ 「キャピタル」とは、債券売買損益および金利変動等の影響による保有債券の評価損益の合計です。

※ 「ヘッジプレミアム/コスト」については短期金利差に基づき算出しております。

※ 「その他」とは、当月の基準価額変動額から、債券要因、為替要因、分配要因、信託報酬等要因を控除し算出したものです。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により運用方針等が変更される場合があります。

PIMCO 米国ハイールド債券 通貨選択型ファンド(ブラジル・リアルコース)

《愛称:ハイールドプラス(ブラジル・リアルコース)》

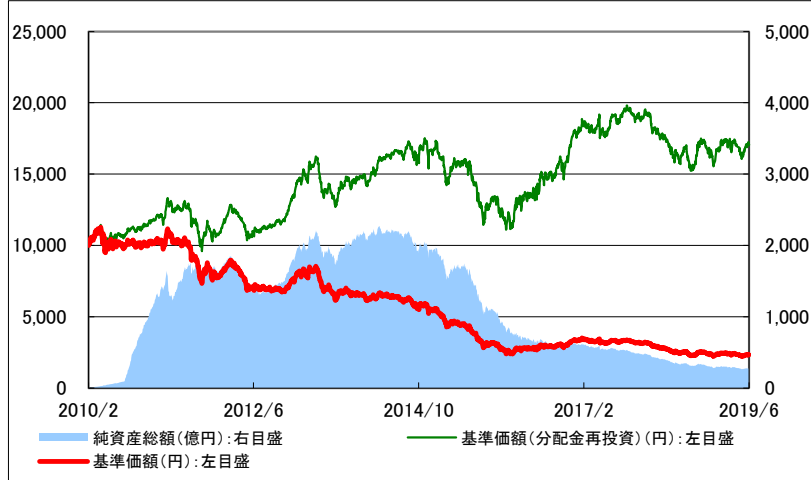
追加型投信/海外/債券

当初設定日 : 2010年2月26日

作成基準日 : 2019年6月28日

※当資料は各通貨コース(6ファンド)のレポートで構成されています。

基準価額の推移



※ データは、当初設定日から作成基準日までを表示しています。
 ※ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
 ※ 基準価額は、信託報酬控除後です。

基準価額、純資産総額

	当月末	前月末比
基準価額	2,316円	+40円
純資産総額	271.96億円	+2.12億円

期間別騰落率

	騰落率
1カ月	2.64%
3カ月	3.13%
6カ月	8.62%
1年	6.46%
3年	20.29%
設定来	70.43%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

資産配分比率

投資対象	配分比率
PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンドⅡークラスY(BRL)	98.50%
マネーパールマザーファンド	0.02%
その他	1.48%

※ 対純資産総額比です。

通貨配分比率

通貨	比率
ブラジル・リアル	99.67%
米国ドル・その他	0.33%

※ 「PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンドⅡークラスY(BRL)」における実質為替エクスポージャーを表示しています。

分配の推移(1万口当たり、税引前)

設定来分配金合計額 11,500円

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2018年	35円	35円	35円	35円	35円	35円	35円	35円	35円	20円	20円	20円
2019年	20円	20円	20円	20円	20円	20円	-	-	-	-	-	-

※ 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

基準価額騰落の要因分析

債券要因	インカム	10円
	キャピタル	31円
為替要因	為替取引プレミアム/コスト(理論値)	8円
	為替変動	15円
分配要因		-20円
信託報酬等要因		-3円
その他		-1円
合計		40円

※ 要因分析は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。あくまで傾向を知るための目安としてご覧ください。
 ※ 「インカム」とは、保有債券の利子などの収益です。
 ※ 「キャピタル」とは、債券売買損益および金利変動等の影響による保有債券の評価損益の合計です。
 ※ 「為替取引プレミアム/コスト」については短期金利差に基づき算出しております。
 ※ 「その他」とは、当月の基準価額変動額から、債券要因、為替要因、分配要因、信託報酬等要因を控除し算出したものです。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。

PIMCO 米国ハイールド債券 通貨選択型ファンド(豪ドルコース)

＜愛称：ハイールドプラス(豪ドルコース)＞

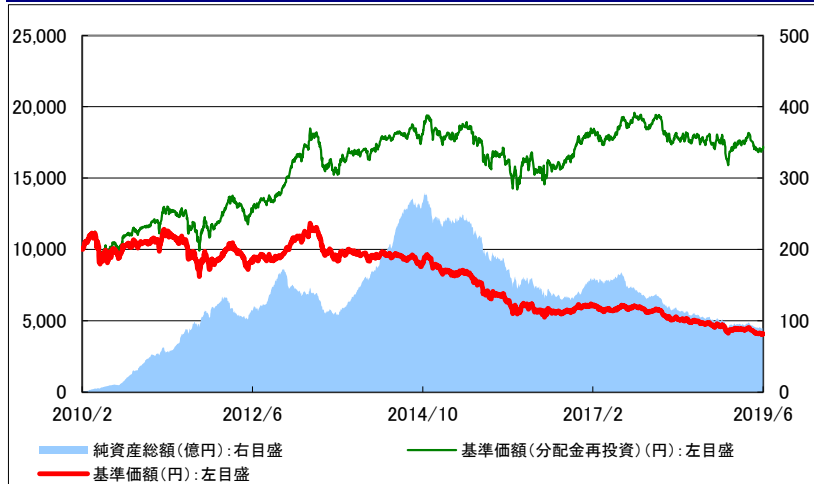
追加型投信／海外／債券

当初設定日：2010年2月26日

作成基準日：2019年6月28日

※当資料は各通貨コース(6ファンド)のレポートで構成されています。

基準価額の推移



※ データは、当初設定日から作成基準日までを表示しています。
 ※ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
 ※ 基準価額は、信託報酬控除後です。

基準価額、純資産総額

	当月末	前月末比
基準価額	4,100円	-14円
純資産総額	90.37億円	-0.08億円

期間別騰落率

	騰落率
1か月	1.14%
3か月	-1.52%
6か月	5.41%
1年	-1.36%
3年	14.53%
設定来	72.04%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

資産配分比率

投資対象	配分比率
PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンドⅡークラスY(AUD)	98.51%
マネープールマザーファンド	0.01%
その他	1.48%

※ 対純資産総額比です。

通貨配分比率

通貨	比率
オーストラリア・ドル	99.67%
米国ドル・その他	0.33%

※ 「PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンドⅡークラスY(AUD)」における実質為替エクスポージャーを表示しています。

分配の推移(1万口当たり、税引前)

設定来分配金合計額 11,390 円

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2018年	60円	60円	60円	60円	60円	60円	60円	60円	60円	60円	60円	60円
2019年	60円	60円	60円	60円	60円	60円	-	-	-	-	-	-

※ 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

基準価額騰落の要因分析

債券要因	インカム	18円
	キャピタル	55円
為替要因	為替取引プレミアム/コスト(理論値)	-4円
	為替変動	-17円
分配要因		-60円
信託報酬等要因		-6円
その他		-0円
合計		-14円

※ 要因分析は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。あくまで傾向を知るための目安としてご覧ください。
 ※ 「インカム」とは、保有債券の利子などの収益です。
 ※ 「キャピタル」とは、債券売買損益および金利変動等の影響による保有債券の評価損益の合計です。
 ※ 「為替取引プレミアム/コスト」については短期金利差に基づき算出しております。
 ※ 「その他」とは、当月の基準価額変動額から、債券要因、為替要因、分配要因、信託報酬等要因を控除し算出したものです。

＜本資料のお取扱いにおけるご留意点＞を必ずお読みください。

PIMCO 米国ハイールド債券 通貨選択型ファンド(米ドルコース)

《愛称:ハイールドプラス(米ドルコース)》

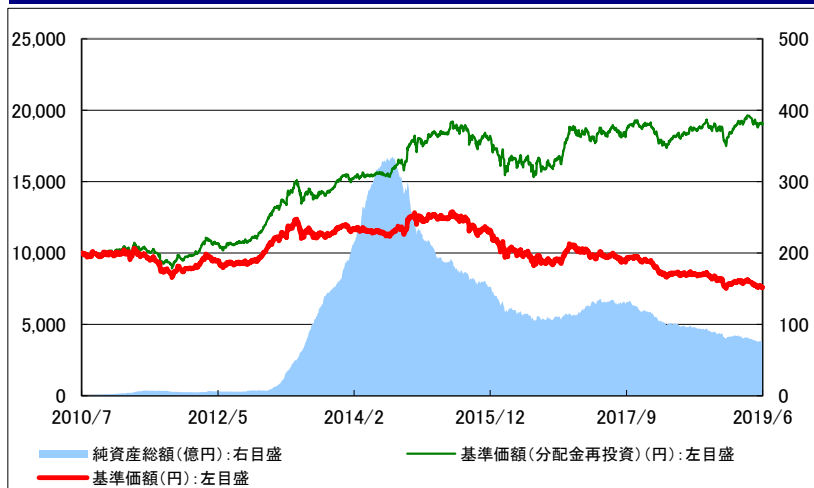
追加型投信/海外/債券

当初設定日 : 2010年7月30日

作成基準日 : 2019年6月28日

※当資料は各通貨コース(6ファンド)のレポートで構成されています。

基準価額の推移



※ データは、当初設定日から作成基準日までを表示しています。
 ※ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
 ※ 基準価額は、信託報酬控除後です。

基準価額、純資産総額

	当月末	前月末比
基準価額	7,611円	-105円
純資産総額	76.11億円	-0.66億円

期間別騰落率

	騰落率
1か月	-0.07%
3か月	-0.12%
6か月	6.85%
1年	4.45%
3年	22.48%
設定来	91.15%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

資産配分比率

投資対象	配分比率
PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンドークラスY(JPY)	98.50%
マネープールマザーファンド	0.00%
その他	1.49%

※ 対純資産総額比です。

通貨配分比率

通貨	比率
米国ドル	100.00%
その他	0.00%

※ 「PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンドークラスY(JPY)」における実質為替エクスポージャーを表示しています。

分配の推移(1万口当たり、税引前)

設定来分配金合計額 9,200円

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2018年	100円	100円	100円	100円	100円	100円	100円	100円	100円	100円	100円	100円
2019年	100円	100円	100円	100円	100円	100円	-	-	-	-	-	-

※ 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

基準価額騰落の要因分析

債券要因	インカム	36円
	キャピタル	113円
為替要因	為替取引プレミアム/コスト(理論値)	-
	為替変動	-141円
分配要因		-100円
信託報酬等要因		-10円
その他		-3円
合計		-105円

※ 要因分析は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。あくまで傾向を知るための目安としてご覧ください。
 ※ 「インカム」とは、保有債券の利子などの収益です。
 ※ 「キャピタル」とは、債券売買損益および金利変動等の影響による保有債券の評価損益の合計です。
 ※ 「その他」とは、当月の基準価額変動額から、債券要因、為替要因、分配要因、信託報酬等要因を控除し算出したものです。

PIMCO 米国ハイールド債券 通貨選択型ファンド(トルコ・リラコース)

《愛称:ハイールドプラス(トルコ・リラコース)》

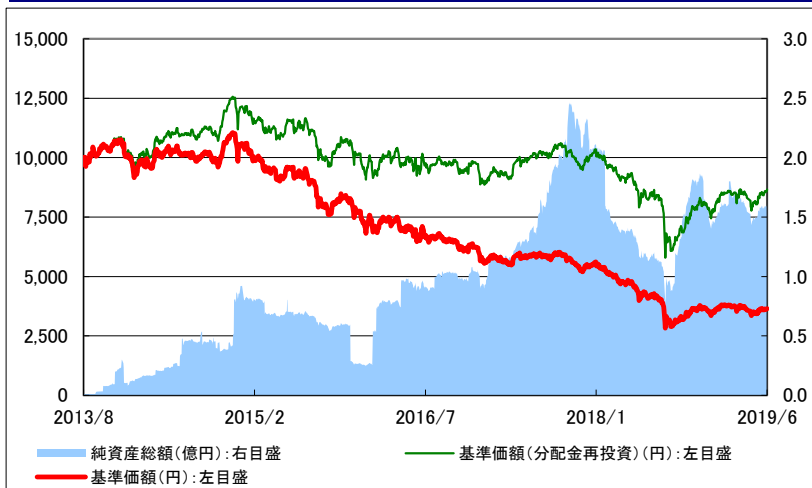
追加型投信/海外/債券

当初設定日 : 2013年8月22日

作成基準日 : 2019年6月28日

※当資料は各通貨コース(6ファンド)のレポートで構成されています。

基準価額の推移



※ データは、当初設定日から作成基準日までを表示しています。
 ※ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
 ※ 基準価額は、信託報酬控除後です。

基準価額、純資産総額

	当月末	前月末比
基準価額	3,651円	+86円
純資産総額	1.60億円	+0.05億円

期間別騰落率

	騰落率
1か月	3.55%
3か月	2.78%
6か月	9.61%
1年	1.94%
3年	-9.66%
設定来	-13.46%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

資産配分比率

投資対象	配分比率
PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンドⅡークラスY(TRY)	98.54%
マネープールマザーファンド	0.01%
その他	1.45%

※ 対純資産総額比です。

通貨配分比率

通貨	比率
トルコ・リラ	99.78%
米国ドル・その他	0.22%

※ 「PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンドⅡークラスY(TRY)」における実質為替エクスポージャーを表示しています。

分配の推移(1万口当たり、税引前)

設定来分配金合計額 5,720 円

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2018年	70円	70円	70円	70円	70円	70円	70円	70円	70円	40円	40円	40円
2019年	40円	40円	40円	40円	40円	40円	-	-	-	-	-	-

※ 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

基準価額騰落の要因分析

債券要因	インカム	15円
	キャピタル	48円
為替要因	為替取引プレミアム/コスト(理論値)	66円
	為替変動	0円
分配要因		-40円
信託報酬等要因		-5円
その他		1円
合計		86円

※ 要因分析は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。あくまで傾向を知るための目安としてご覧ください。
 ※ 「インカム」とは、保有債券の利子などの収益です。
 ※ 「キャピタル」とは、債券売買損益および金利変動等の影響による保有債券の評価損益の合計です。
 ※ 「為替取引プレミアム/コスト」については短期金利差に基づき算出しております。
 ※ 「その他」とは、当月の基準価額変動額から、債券要因、為替要因、分配要因、信託報酬等要因を控除し算出したものです。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。

PIMCO 米国ハイイールド債券 通貨選択型ファンド(メキシコ・ペソコース)

《愛称:ハイイールドプラス(メキシコ・ペソコース)》

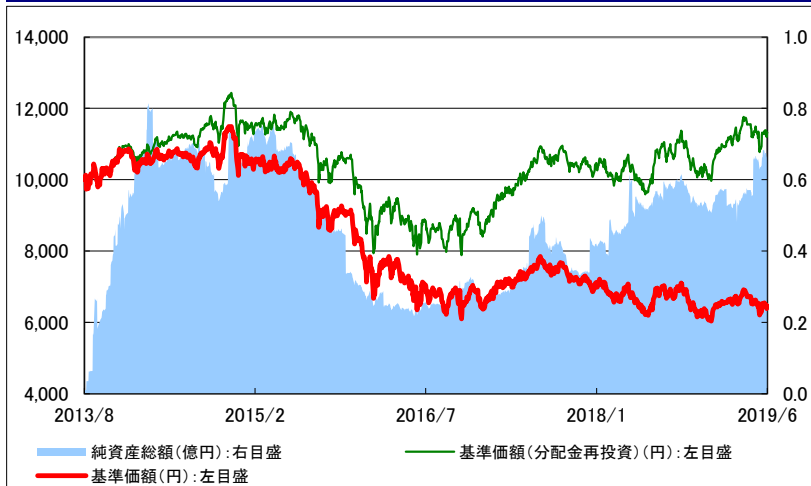
追加型投信/海外/債券

当初設定日 : 2013年8月22日

作成基準日 : 2019年6月28日

※当資料は各通貨コース(6ファンド)のレポートで構成されています。

基準価額の推移



※ データは、当初設定日から作成基準日までを表示しています。
 ※ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
 ※ 基準価額は、信託報酬控除後です。

基準価額、純資産総額

	当月末	前月末比
基準価額	6,459円	-80円
純資産総額	0.66億円	+0.00億円

期間別騰落率

	騰落率
1か月	-0.23%
3か月	2.03%
6か月	11.43%
1年	13.51%
3年	36.20%
設定来	13.18%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

資産配分比率

投資対象	配分比率
PIMCO U. S. ハイイールド・ストラテジー・ファンドⅡークラスY(MXN)	98.49%
マネープールマザーファンド	0.02%
その他	1.49%

※ 対純資産総額比です。

通貨配分比率

通貨	比率
メキシコ・ペソ	99.71%
米国ドル・その他	0.29%

※ 「PIMCO U. S. ハイイールド・ストラテジー・ファンドⅡークラスY(MXN)」における実質為替エクスポージャーを表示しています。

分配の推移(1万口当たり、税引前)

設定来分配金合計額 4,420 円

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2018年	65 円	65 円	65 円	65 円	65 円	65 円	65 円	65 円	65 円	65 円	65 円	65 円
2019年	65 円	65 円	65 円	65 円	65 円	65 円	-	-	-	-	-	-

※ 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

基準価額騰落の要因分析

債券要因	インカム	28 円
	キャピタル	88 円
為替要因	為替取引プレミアム/コスト(理論値)	31 円
	為替変動	- 147 円
分配要因		- 65 円
信託報酬等要因		- 9 円
その他		- 7 円
合計		- 80 円

※ 要因分析は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。あくまで傾向を知るための目安としてご覧ください。
 ※ 「インカム」とは、保有債券の利子などの収益です。
 ※ 「キャピタル」とは、債券売買損益および金利変動等の影響による保有債券の評価損益の合計です。
 ※ 「為替取引プレミアム/コスト」については短期金利差に基づき算出しております。
 ※ 「その他」とは、当月の基準価額変動額から、債券要因、為替要因、分配要因、信託報酬等要因を控除し算出したものです。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。

PIMCO 米国ハイールド債券 通貨選択型ファンド 《愛称:ハイールドプラス》

(円コース、ブラジル・リアルコース、豪ドルコース、米ドルコース、トルコ・リラコース、メキシコ・ペソコース)

追加型投信/海外/債券

作成基準日 : 2019年6月28日

PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンド/PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンド II

※このページは、「PIMCO 米国ハイールド債券 通貨選択型ファンド」が主要な投資対象とする、「PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンド」および「PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンド II」のマスターファンド「PIMCO パミュダ U. S. ハイールド・ファンド(M)」についての情報を掲載しています。

基準価額の推移



※ 基準価額は、分配金(税引前)を再投資したものとみなして修正した基準価額です。
 ※ 上記グラフは、マスターファンド「PIMCO パミュダ U. S. ハイールド・ファンド(M)」の基準価額(ドルベース)を、PIMCO 米国ハイールド債券通貨選択型ファンドの設定日を10,000として指数化したものです。

資産内容

債券	95.24%
短期金融資産等	4.76%

※ 対純資産総額比です。

組入上位5業種

	業種	比率
1	ヘルスケア	7.45%
2	メディア(ケーブル)	7.17%
3	テクノロジー	4.84%
4	エネルギー採掘	4.83%
5	建設資材	3.95%

※ 先物等調整後資産総額比(現金等除く)です。

組入上位10銘柄

	銘柄名	通貨	クーポン	償還日	業種	比率
1	ORTHO-CLINICAL DIAGNOSTICS SR UNSEC 144A	米国ドル	6.625%	2022/5/15	ヘルスケア	0.70%
2	VIRGIN MEDIA FINANCE PLC 144A	米国ドル	5.750%	2025/1/15	メディア(ケーブル)	0.61%
3	BEACON ESCROW CORP SR UNSEC 144A	米国ドル	4.875%	2025/11/1	建設資材	0.51%
4	RESTAURANT BRANDS SR SEC 144A	米国ドル	5.000%	2025/10/15	飲食店	0.50%
5	SPRINT CORP SR UNSEC	米国ドル	7.875%	2023/9/15	無線通信	0.48%
6	SPRINT CORP SR UNSEC	米国ドル	7.125%	2024/6/15	無線通信	0.47%
7	PPDI (JAGUAR HLD) SR UNSEC 144A	米国ドル	6.375%	2023/8/1	ヘルスケア	0.46%
8	NOVELIS CORP SR UNSEC 144A	米国ドル	5.875%	2026/9/30	金属・鉱業	0.45%
9	CAESARS GROWTH PROP LLC SR UNSEC 144A	米国ドル	5.250%	2025/10/15	観光産業	0.44%
10	UNIVISION COMMUNICATIONS SR SEC 144A	米国ドル	5.125%	2025/2/15	メディア(放送)	0.42%

※ 先物等調整後資産総額比(現金等除く)です。

※ 「PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンド」および「PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンド II」のマスターファンド「PIMCO パミュダ U. S. ハイールド・ファンド(M)」の資産内容等は、三井住友トラスト・アセットマネジメントがビムコジャパンリミテッドからの情報提供に基づき作成しておりますが、掲載データに関する情報の正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。

特性値

残存年数	4.70年
デュレーション	3.13年
最終利回り	5.57%
直接利回り	5.45%
組入銘柄数	493銘柄

※ 各特性値は、純資産総額に対する値です。また、利回り(税引前)は、ファンドの運用利回り等を示唆するものではありません。

格付別構成比

AAA	7.77%
AA	0.00%
A	0.00%
BBB	3.18%
BB	52.81%
B	32.16%
CCC	4.08%
CC 以下	0.00%
A1/P1	0.00%
A2/P2 以下	0.00%

※ 先物等調整後資産総額比です。

※ 格付はムーディーズとS&Pのうち、上位の格付を採用しています。

※ 上記の2社より格付が付与されていない場合、PIMCOが独自で付与した格付を使用しています。

残存期間別構成比

1年未満	8.39%
1~3年	19.04%
3~5年	31.95%
5~10年	37.34%
10年以上	3.28%

※ 先物等調整後資産総額比です。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。

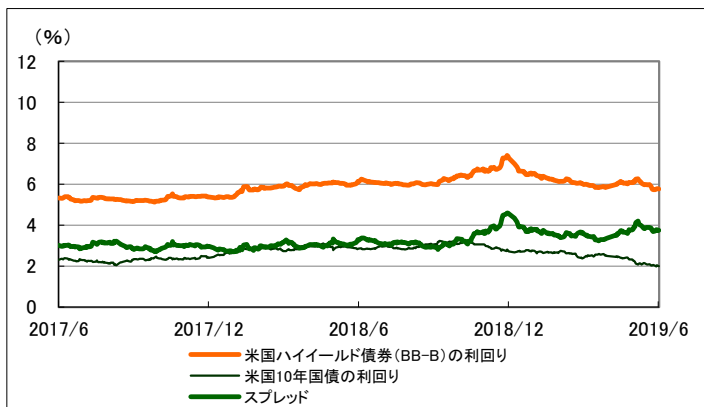
PIMCO 米国ハイールド債券 通貨選択型ファンド 《愛称:ハイールドプラス》

(円コース、ブラジル・リアルコース、豪ドルコース、米ドルコース、トルコ・リラコース、メキシコ・ペソコース)

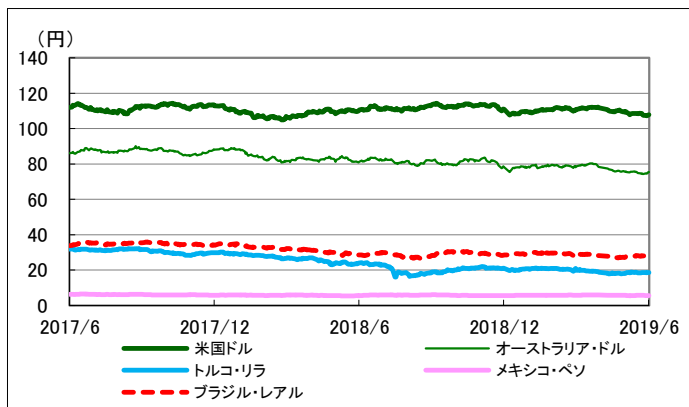
追加型投信 / 海外 / 債券

作成基準日 : 2019年6月28日

米国ハイールド債券と米国10年国債の利回りとスプレッドの推移

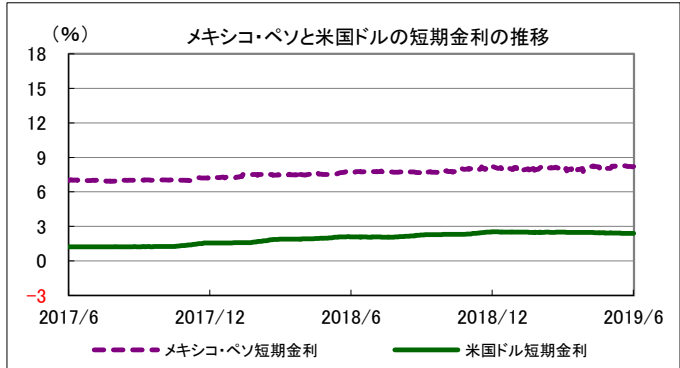
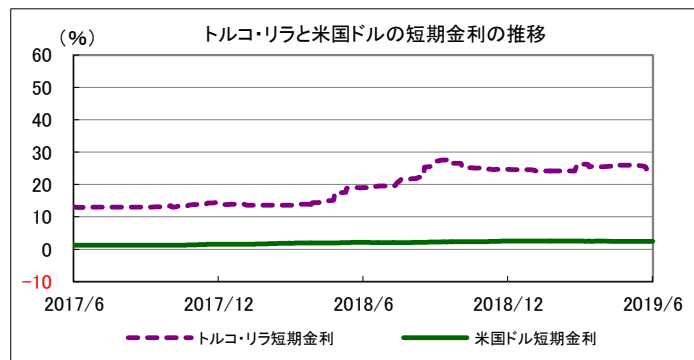
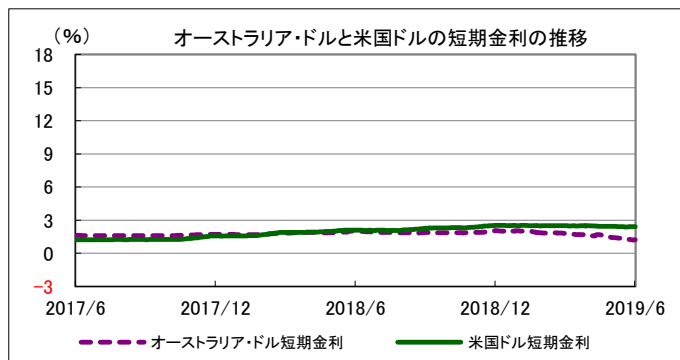
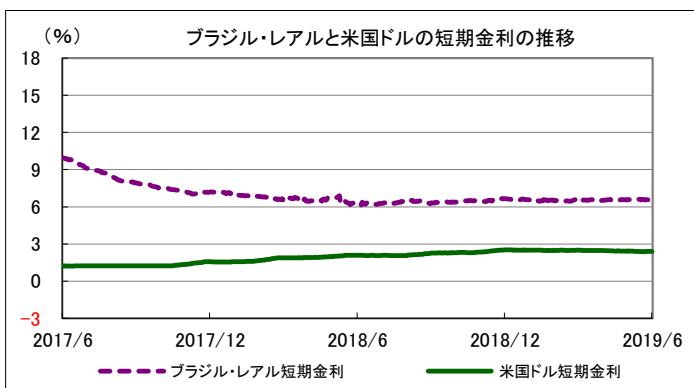
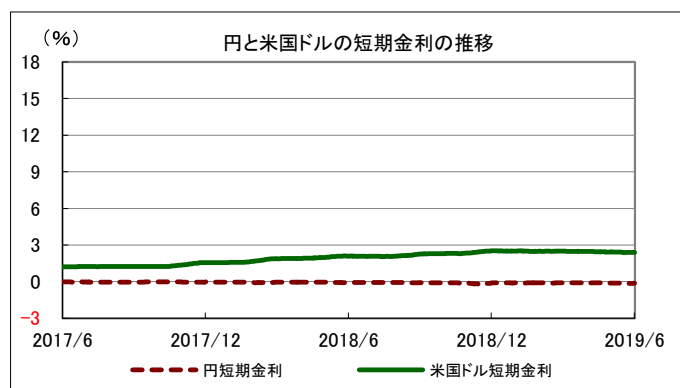


為替レートの推移



※ 米国ハイールド債券(BB-B)の利回りは、BofAメリルリンチ・US・ハイールド・BB-B・インデックスの利回りを使用しています。
 ※ スプレッドは、米国ハイールド債券(BB-B)と米国10年国債の利回り差により算出しています。

投資対象通貨短期金利(1ヵ月)の推移



※ 短期金利(1ヵ月)は、米国ドル、円、トルコ・リラ:各通貨のLIBOR、オーストラリア・ドル:豪州銀行間取引金利、ブラジル・リアル、メキシコ・ペソ:T-Billです。

※上記グラフは、過去2年間の推移を表示しています。
 ※上記グラフはBofAメリルリンチ、Bloombergのデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメントが作成しています。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。

PIMCO 米国ハイールド債券 通貨選択型ファンド 《愛称：ハイールドプラス》

(円コース、ブラジル・リアルコース、豪ドルコース、米ドルコース、トルコ・リラコース、メキシコ・ペソコース)

追加型投信／海外／債券

作成基準日：2019年6月28日

PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンド／PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンドⅡ

※このページは、「PIMCO 米国ハイールド債券 通貨選択型ファンド」が主要な投資対象とする、「PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンド」および「PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンドⅡ」のマスターファンド「PIMCO パミュダ U. S. ハイールド・ファンド(M)」についての情報を掲載しています。

ファンドマネージャーのコメント**【市場動向】**

6月の米国ハイールド債券市場はプラスのリターンとなりました。

月前半は予想を下回る5月の雇用統計や物価統計を受けて米国国債金利が低下したことから、米国ハイールド債市場は上昇しました。月後半はFOMC(米連邦公開市場委員会)の内容を受けて、早期の利下げ観測が強まったことなどを背景に、米国国債金利が低下したことに加え、G20(20カ国・地域)サミットで米中首脳会談が行われる見通しとなったことなどにより、スプレッド(国債に対する上乗せ金利)が縮小したことから、米国ハイールド債市場は堅調に推移しました。

月を通じてみると、米国国債金利が低下したことやスプレッドが縮小したことがプラスに寄与し、米国ハイールド債券市場は前月末比上昇しました。

【運用実績】**【円コース】**

当月中、米国ハイールド債券市場が上昇したことがプラスとなり、基準価額騰落率はプラスとなりました。運用戦略では、ゲーミングにおける銘柄選択効果などがプラスに寄与した一方、エネルギーにおける銘柄選択効果などがマイナスに影響しました。

【米ドルコース】

当月中、米国ハイールド債券市場が上昇したことがプラスとなった一方、円高・米ドル安が進行したことがマイナスとなり、基準価額騰落率はマイナスとなりました。運用戦略では、ゲーミングにおける銘柄選択効果などがプラスに寄与した一方、エネルギーにおける銘柄選択効果などがマイナスに影響しました。

【豪ドルコース】

当月中、円高・豪ドル安が進行したことがマイナスとなった一方、米国ハイールド債券市場が上昇したことがプラスとなり、基準価額騰落率はプラスとなりました。運用戦略では、ゲーミングにおける銘柄選択効果などがプラスに寄与した一方、エネルギーにおける銘柄選択効果などがマイナスに影響しました。

【ブラジル・リアルコース】

当月中、米国ハイールド債券市場が上昇したことや円安・ブラジルリアル高が進行したことがプラスとなり、基準価額騰落率はプラスとなりました。運用戦略では、ゲーミングにおける銘柄選択効果などがプラスに寄与した一方、エネルギーにおける銘柄選択効果などがマイナスに影響しました。

【トルコ・リラコース】

当月中、米国ハイールド債券市場が上昇したことや円安・トルコリラ高が進行したことがプラスとなり、基準価額騰落率はプラスとなりました。運用戦略では、ゲーミングにおける銘柄選択効果などがプラスに寄与した一方、エネルギーにおける銘柄選択効果などがマイナスに影響しました。

【メキシコ・ペソコース】

当月中、米国ハイールド債券市場が上昇したことがプラスとなったものの、コスト要因等から基準価額騰落率はマイナスとなりました。運用戦略では、ゲーミングにおける銘柄選択効果などがプラスに寄与した一方、エネルギーにおける銘柄選択効果などがマイナスに影響しました。

【今後の運用方針】

米国では良好な企業業績、雇用環境、賃金上昇を背景に、引き続き自立的な経済成長が見込まれるものの、財政政策による景気浮揚効果の縮小や過去数年の金融引き締め政策の影響、中国をはじめとした世界経済の減速に伴う逆風などを背景に、成長ペースは減速すると見えています。こうした環境の下、米国ハイールド債券のデフォルト(債務不履行)率は若干上昇することが見込まれるものの、企業の財務状況が安定的であるなどファンダメンタルズは引き続き良好であるため、デフォルト率の上昇は限定的なものにとどまると見えています。需給の観点からは、バンクローン市場の拡大に伴いハイールド債券の発行量が減少傾向となっていることや先進国を中心に世界的な低金利環境が続く中で同債券の相対的に高い利回りに対する投資家の需要がある点が、サポート要因となると考えます。また足元で懸念が広がる米国の保護主義拡大に関してはその影響を注視する必要はあるものの、内需関連の多い同債券の発行企業は、業績面と財政面の双方でトランプ政権が進める国内景気の刺激策の恩恵を受けることが期待されます。

一方、大規模な減税や財政支出の拡大は短期的には景気を上振れさせる要因となるものの、将来的な財政赤字の拡大や消費者物価の上振れ、利上げペースの加速といったリスクを増大させる可能性があります。

上述の見通しの下、当戦略はマクロ環境の変化に対する耐性なども配慮しながら業種・銘柄選択を行う方針です。具体的には、参入障壁が高くキャッシュフローが安定的なヘルスケア、周期的な家財修繕やリフォーム需要の高まりを享受できる建設資材などの投資比率を高めとします。一方、資源価格の変動の影響を受けやすいと考えられる資源関連や景気サイクル終盤で大きく需要減退する可能性がある自動車への投資比率を少なめとします。

また、ハイールド債券の中でも比較的高格付の債券を中心に分散投資を行うことでデフォルトリスクを抑え、より安定的な収益の獲得を目指します。

※ 「PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンド」および「PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンドⅡ」のマスターファンド「PIMCO パミュダ U. S. ハイールド・ファンド(M)」の資産内容等は、三井住友トラスト・アセットマネジメントがピムコジャパンリミテッドからの情報提供に基づき作成しておりますが、掲載データに関する情報の正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。

PIMCO 米国ハイールド債券 通貨選択型ファンド 《愛称:ハイールドプラス》

(円コース、ブラジル・リアルコース、豪ドルコース、米ドルコース、トルコ・リラコース、メキシコ・ペソコース)

追加型投信／海外／債券

作成基準日 : 2019年6月28日

PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンド／PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンドⅡ

※このページは、「PIMCO 米国ハイールド債券 通貨選択型ファンド」が主要な投資対象とする、「PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンド」および「PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンドⅡ」のマスターファンド「PIMCO バミューダ U. S. ハイールド・ファンド(M)」についての情報を掲載しています。

組入上位10銘柄の概要

	組入銘柄(発行体名)	業種	概要
1	Ortho-Clinical Diagnostics, Inc.	ヘルスケア	米国で医療用機器の製造・販売を行う企業。病気の早期発見、診断、経過観察を把握するための医療機器等を提供。
2	Virgin Media Finance Plc	メディア(ケーブル)	英国を中心にブロードバンド通信やテレビ放送など多様な通信サービスを提供するグループの債券発行を目的とした特別子会社。
3	Beacon Escrow Corporation	建設資材	米国で屋根ふき材、壁板材、絶縁材などの住宅製品を販売する会社。
4	RESTAURANT BRANDS	飲食店	米国をはじめ世界各地で事業を展開するファーストフード・レストラン運用会社。
5	Sprint Corporation	無線通信	米国にて子会社を通じて有線、無線通信関連サービスを提供する通信サービス会社。2013年7月にソフトバンク社が買収。
6	Sprint Corporation	無線通信	米国にて子会社を通じて有線、無線通信関連サービスを提供する通信サービス会社。2013年7月にソフトバンク社が買収。
7	PPDI (JAGUAR HLD)	ヘルスケア	米国に拠点を置く世界最大規模の臨床医薬品開発受託機関。
8	Novelis Corporation	金属・鉱業	世界各地で事業を展開するアルミ製品メーカー。
9	Caesars Growth Partners	観光産業	米国のカジノリゾート運営会社。米国内外でカジノリゾートを所有および運営を行っている。
10	UNIVISION COMMUNICATIONS	メディア(放送)	米国にて娯楽やスポーツ、ニュース、ライフスタイルの番組などを放送するテレビ・ラジオ放送サービス会社。

※ 「PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンド」および「PIMCO U. S. ハイールド・ストラテジー・ファンドⅡ」のマスターファンド「PIMCO バミューダ U. S. ハイールド・ファンド(M)」の資産内容等は、三井住友トラスト・アセットマネジメントがピムコジャパンリミテッドからの情報提供に基づき作成しておりますが、掲載データに関する情報の正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。

PIMCO 米国ハイールド債券 通貨選択型ファンド 《愛称:ハイールドプラス》

(円コース、ブラジル・リアルコース、豪ドルコース、米ドルコース、トルコ・リラコース、メキシコ・ペソコース)

追加型投信／海外／債券

作成基準日 : 2019年6月28日

ファンドの特色

1. 主要投資対象ファンドへの投資を通じて、格付が投資適格未満の米ドル建社債(以下「米国ハイールド債券」といいます。)に投資します。
2. 通貨が異なる6つのコースがあります。

円コース	米ドル建資産に対し、原則として対円で為替ヘッジを行います。 為替ヘッジの内容:米ドル売り 日本円買い
ブラジル・リアルコース	米ドル建資産に対し、原則として下記の為替取引を行います。 為替取引の内容:米ドル売り ブラジル・リアル買い
豪ドルコース	米ドル建資産に対し、原則として下記の為替取引を行います。 為替取引の内容:米ドル売り 豪ドル買い
米ドルコース	米ドル建資産に対する為替取引は行いません。 為替取引の内容:行いません。
トルコ・リラコース	米ドル建資産に対し、原則として下記の為替取引を行います。 為替取引の内容:米ドル売り トルコ・リラ買い
メキシコ・ペソコース	米ドル建資産に対し、原則として下記の為替取引を行います。 為替取引の内容:米ドル売り メキシコ・ペソ買い

販売会社によりお取り扱いファンドが異なる場合があります。詳細につきましては販売会社にお問い合わせください。

3. パシフィック・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシー(PIMCO)が運用するバミューダ籍円建投資信託証券を主要投資対象ファンドとします。

〈各ファンドの主要投資対象ファンド〉

円コース	PIMCO U.S. ハイールド・ストラテジー・ファンド – クラスY(JPY, Hedged)
ブラジル・リアルコース	PIMCO U.S. ハイールド・ストラテジー・ファンド II – クラスY(BRL)
豪ドルコース	PIMCO U.S. ハイールド・ストラテジー・ファンド II – クラスY(AUD)
米ドルコース	PIMCO U.S. ハイールド・ストラテジー・ファンド – クラスY(JPY)
トルコ・リラコース	PIMCO U.S. ハイールド・ストラテジー・ファンド II – クラスY(TRY)
メキシコ・ペソコース	PIMCO U.S. ハイールド・ストラテジー・ファンド II – クラスY(MXN)

各ファンドとも、主要投資対象ファンドへの投資割合は、原則として高位を維持することを基本とします。

4. 各ファンドの運用にあたっては、ピムコジャパンリミテッドに外国投資信託受益証券への運用の指図に関する権限を委託します。

〈本資料のお取扱いにおけるご留意点〉を必ずお読みください。

PIMCO 米国ハイールド債券 通貨選択型ファンド 《愛称：ハイールドプラス》

(円コース、ブラジル・リアルコース、豪ドルコース、米ドルコース、トルコ・リラコース、メキシコ・ペソコース)

追加型投信／海外／債券

作成基準日 : 2019年6月28日

投資リスク

《基準価額の変動要因》

- ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。
従って、**投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。**
- **信託財産に生じた利益及び損失は、全て投資者の皆様に帰属します。**
- **投資信託は預貯金と異なります。**

【為替変動リスク】

(ブラジル・リアルコース、豪ドルコース、トルコ・リラコース、メキシコ・ペソコース)

ファンドが主に投資する外国投資信託の組入資産(米ドル建)について、原則として米ドル売り各コースの対象通貨買いの為替取引を行いますので、当該通貨に対して円高となった場合には、基準価額の下落要因となります。

(米ドルコース)

ファンドが主に投資する外国投資信託の組入資産(米ドル建)について、為替取引は行いません。従って、米ドルに対して円高となった場合には、基準価額の下落要因となります。

(円コース)

ファンドが主に投資する外国投資信託の組入資産(米ドル建)について、原則として米ドル売り円買いの為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。

為替取引を行うことにより、米ドル／円の為替変動リスクから為替取引対象通貨／円の為替変動リスクに変わります。

＜為替変動リスクと基準価額に与える影響＞

	基準価額に影響を与える 為替変動リスク	円安 (為替取引対象通貨高)	円高 (為替取引対象通貨安)
円コース	*1	*1	*1
ブラジル・リアルコース	ブラジル・リアル／円の変動	基準価額上昇	基準価額下落
豪ドルコース	豪ドル／円の変動	基準価額上昇	基準価額下落
米ドルコース	米ドル／円の変動	基準価額上昇	基準価額下落
トルコ・リラコース	トルコ・リラ／円の変動	基準価額上昇	基準価額下落
メキシコ・ペソコース	メキシコ・ペソ／円の変動	基準価額上昇	基準価額下落

*1: 対円での為替ヘッジにより、為替変動リスクの低減を図ります(ただし、完全に為替変動リスクを排除できるものではありません)。

※米ドルコースは為替取引を行いません。

※上記は基準価額の変動要因の1つである「為替変動リスク」についてまとめたイメージであり、全ての変動要因を表しているものではありません。

ただし、上記の各コース(米ドルコースを除く)とも、上記の為替取引・為替ヘッジにより米ドルの為替変動の影響を完全に排除することはできませんので、米ドルの為替変動の影響を受ける場合があります。また、為替取引・為替ヘッジを行う各コースの対象通貨の短期金利が米ドル短期金利より低い場合には、当該通貨と米ドルの金利差相当分のコストがかかりますが、さらに需給要因等によっては金利差相当分を上回るコストがかかる場合があることにご留意ください。

【金利変動リスク】

債券の価格は、一般的に金利低下(上昇)した場合は値上がり(値下がり)します。また、発行者の財務状況の変化等及びそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢等により変動します。債券価格が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。各ファンドが主要投資対象ファンドを通じて実質的に投資する米国ハイールド債券は、こうした金利変動の影響をより大きく受ける可能性があります。

【信用リスク】

有価証券の発行体が財政難、経営不振、その他の理由により、利払い、償還金、借入金等をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなった場合、又はそれが予想される場合には、有価証券の価格は下落し、基準価額の下落要因となる可能性があります。各ファンドが主要投資対象ファンドを通じて実質的に投資する米国ハイールド債券は、格付の高い債券に比べて、信用度に関するマーケットの考え方の変化の影響をより大きく受ける可能性があり、利払い、償還金、借入金等をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなるリスクがより高いものになると想定されます。

【流動性リスク】

時価総額が小さい、取引量が少ない等流動性が低い市場、あるいは取引規制等の理由から流動性が低下している市場で有価証券等を売買する場合、市場の実勢と大きく乖離した水準で取引されることがあり、その結果、基準価額の下落要因となる可能性があります。

※ 基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

《その他の留意点》

- 新興国通貨に対して為替取引を行う場合、外国為替予約取引と類似する直物為替先渡取引(NDF)を利用する場合があります。NDFの取引価格は、需給や当該通貨に対する期待等により、金利差から理論上期待される水準とは大きく異なる場合があります。この結果、基準価額の値動きは、実際の当該対象通貨の為替市場の値動きから想定されるものと大きく乖離する場合があります。
- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

＜本資料のお取扱いにおけるご留意点＞を必ずお読みください。

PIMCO 米国ハイールド債券 通貨選択型ファンド 《愛称:ハイールドプラス》

(円コース、ブラジル・リアルコース、豪ドルコース、米ドルコース、トルコ・リラコース、メキシコ・ペソコース)

追加型投信／海外／債券

作成基準日 : 2019年6月28日

お申込みメモ

- 購入単位 … 販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 購入価額 … 購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。(基準価額は1万口当たりで表示しています。)
- 換金単位 … 販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 換金価額 … 換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。(信託財産留保額の控除はありません。)
- 換金代金 … 原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目からお支払いします。
- 申込締切時間 … 原則として、販売会社の営業日の午後3時までとします。
- 購入・換金 … 申込日当日が次の場合は、購入・換金のお申込みを受け付けられないものとします。
申込受付不可日 … ニューヨーク証券取引所の休業日
- 換金制限 … ファンドの規模及び商品性格などに基づき、運用上の支障をきたさないようにするため、大口の換金には受付時間及び金額の制限を行う場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 購入・換金申込受付の中止及び取消し … 金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、委託会社は購入・換金のお申込みの受け付けを中止すること、及びすでに受け付けた購入・換金のお申込みの取消しを行うことがあります。
- 信託期間 … 円コース／ブラジル・リアルコース／豪ドルコース
原則として、2010年2月26日(設定日)から2020年2月20日までとします。
米ドルコース
原則として、2010年7月30日(設定日)から2020年2月20日までとします。
トルコ・リラコース／メキシコ・ペソコース
原則として、2013年8月22日(設定日)から2020年2月20日までとします。
- 繰上償還 … 委託会社は、主要投資対象ファンドが償還されることとなった場合、その主要投資対象ファンドに投資を行っているファンドを解約し、信託を終了(繰上償還)させます。
次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了(繰上償還)させることができます。
・受益権の口数が10億口を下回るようになった場合
・ファンドを償還することが受益者のために有利であると認める場合
・やむを得ない事情が発生した場合
- 決算日 … 毎月20日(休業日の場合は翌営業日)です。
- 収益分配 … 年12回、毎決算時に原則として収益分配を行う方針です。
- 課税関係 … 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度及び未成年者少額投資非課税制度の適用対象です。
なお、配当控除あるいは益金不算入制度の適用はありません。
- スイッチング … 「PIMCO 米国ハイールド債券 通貨選択型ファンド」を構成する各ファンド間でスイッチングができます。
スイッチングの方法等は、購入、換金の場合と同様です。
(販売会社によっては、スイッチングの取扱いを行わない場合があります。)

ファンドの費用

《投資者が直接的に負担する費用》

■ 購入時手数料

購入申込受付日の翌営業日の基準価額に**3.24%(税抜3.0%)を上限**として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

■ 信託財産留保額

ありません。

《投資者が信託財産で間接的に負担する費用》

■ 運用管理費用(信託報酬)

純資産総額に対して**年率1.728%(税抜1.6%)**

■ 投資対象とする投資信託証券

ありません。

■ 実質的な負担

純資産総額に対して**年率1.728%(税抜1.6%)**

■ その他の費用・手数料

監査費用、有価証券の売買・保管、信託事務に係る諸費用等をその都度(監査費用は日々)、ファンドが負担します。これらの費用は、運用状況等により変動するなどの理由により、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。

※ 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「お申込みメモ」、「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。

PIMCO 米国ハイールド債券 通貨選択型ファンド 《愛称:ハイールドプラス》

(円コース、ブラジル・リアルコース、豪ドルコース、米ドルコース、トルコ・リラコース、メキシコ・ペソコース)

追加型投信 / 海外 / 債券

作成基準日 : 2019年6月28日

収益分配金に関する留意事項

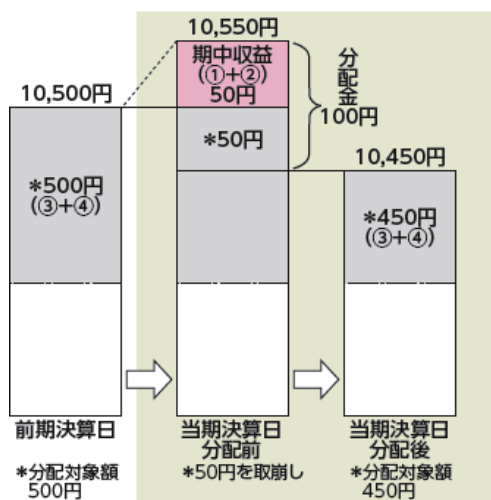
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



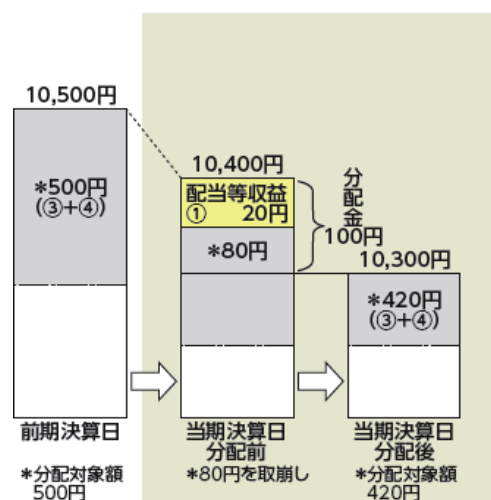
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益及び評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

(計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合)

(前期決算日から基準価額が上昇した場合)



(前期決算日から基準価額が下落した場合)

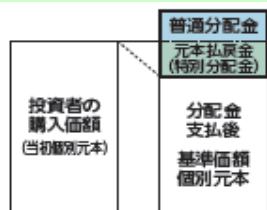


(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益及び②経費控除後の評価益を含む売買益並びに③分配準備積立金及び④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※ 上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆あるいは保証するものではありませんのでご注意ください。

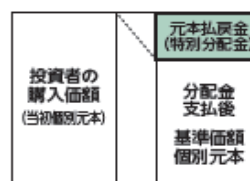
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部又は全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

(分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合)



※ 元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は**非課税扱い**となります。

(分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合)



普通分配金: 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金): 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

(注) 普通分配金に対する課税については、投資信託説明書(交付目論見書)の「手続・手数料等」の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。

PIMCO 米国ハイールド債券 通貨選択型ファンド 《愛称：ハイールドプラス》

(円コース、ブラジル・リアルコース、豪ドルコース、米ドルコース、トルコ・リラコース、メキシコ・ペソコース)

追加型投信／海外／債券

作成基準日：2019年6月28日

通貨選択型ファンドの収益のイメージ

- 通貨選択型の投資信託は、株式や債券などといった投資対象資産に加えて、為替取引の対象となる円以外の通貨も選択することができるように設計された投資信託です。

<通貨選択型の投資信託のイメージ図>



※ 取引対象通貨が円以外の場合には、当該取引対象通貨の対円での為替リスクが発生することに留意が必要です。

* <ブラジル・リアルコース>、<豪ドルコース>、<トルコ・リラコース>、<メキシコ・ペソコース>では、投資対象資産(米ドル建て)について、原則として対取引対象通貨での③為替取引(米ドル売り・取引対象通貨買い)を行います。従って、取引対象通貨／円の③為替変動に伴うリスクを負います。

* <米ドルコース>では、投資対象資産(米ドル建て)について、原則として③為替取引は行いません。従って、米ドル／円の③為替変動に伴うリスクを負います。

* <円コース>では、投資対象資産(米ドル建て)について、原則として対円での為替ヘッジ(米ドル売り・円買い)を行い、米ドル／円の③為替変動に伴うリスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。

- 通貨選択型の投資信託の収益源としては、以下の3つの要素が挙げられます。これらの収益源に相応してリスクが内在していることに留意が必要です。

	(A)	(B)	(C)
	<ブラジル・リアルコース>、<豪ドルコース>、<トルコ・リラコース>、<メキシコ・ペソコース>		
収益の源泉	米国ハイールド債券の 利子収入、値上がり/値下がり	為替取引による プレミアム/コスト	為替差益/差損
<米ドルコース>	米国ハイールド債券の 利子収入、値上がり/値下がり	-	為替差益/差損
<円コース>	米国ハイールド債券の 利子収入、値上がり/値下がり	為替ヘッジによる プレミアム/コスト(注)	-

	(A)	(B)	(C)
収益を得られるケース	・金利の低下 ↑ 債券価格の上昇	・取引対象通貨の短期金利 > 米ドルの短期金利 ↑ プレミアム(金利差相当分の収益)の発生	・円に対して取引対象通貨高 ↑ 為替差益の発生
損失やコストが発生するケース	・金利の上昇 ↓ 債券価格の下落 ・発行体の信用状況の悪化	・取引対象通貨の短期金利 < 米ドルの短期金利 ↓ コスト(金利差相当分の費用)の発生	・円に対して取引対象通貨安 ↓ 為替差損の発生

※<米ドルコース>を除きます。

※<円コース>を除きます。

(注) 円コースのように、為替ヘッジを行うコースの取引対象通貨の短期金利が米ドル短期金利より低い場合には、当該取引対象通貨と米ドルとの金利差相当分のコストがかかりますが、さらに需給要因等によっては金利差相当分を上回るコストがかかる場合があることにご留意ください。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。